

祝辞

卒業生の皆さん、本日はご卒業おめでとうございます。また保護者の皆様、お子様のご卒業、誠におめでとうございます。

皆さんは新しい元号、令和になって初めての卒業生となります。さて、皆さんの目には令和の始まりはどのように映ったのでしょうか。猛暑の夏、風水害とラグビーワールドカップに沸いた秋、そして、新型ウィルスの影響でみんなでお祝いできない今年の卒業式は特に忘れ難いものとなるでしょう。

おろしたての制服に身を包み、入学したあの日から三年、皆さんの姿はひとまわりも二回りも成長し、頼もしくなりました。これもひとえに、陰となり日向となり全力で支えてこられたご家族の力があればこそだと思います。併せて地域の方々ならびに同窓会、後援会の方々におかれましては、日頃より温かく見守っていただきました事、誠にありがとうございます。また、教職員の皆様には、迷い悩む子どもたちの道標となり、ご指導くださいました事、深く感謝申し上げます。

この春、新たな一步を踏み出す皆さんに、私の好きな小説の一説を贈りたいと思います。「一緒に歩いているつもりでも、ある人の道はどんどん大きく広がっていき、ある人の道は狭くなって行って、いつか先を見失うことが起こり、立ち止まってしまうかもしれません。それは、どうしようもないことでしょう。先を見失って、隣の道に足を踏み入れたとしても、その道は自分の道ではないのです。いつか歩く術さえわからなくなるのかもしれない。でも、今までその人が歩いてきた道は、残っているのですよ。

振り返れば、自分一人でこうと決めて作ってきた道が、ずっとずっと歩いてきた道筋がそこにあります。自分の足跡がしっかりと残っています。それは時が経とうと決して消えるものではありませんよね。

たとえ進めなくなったとしても、振り返って、その歩いてきた道を確認めるところから、またどこか別の道筋が見えてくることだってあるはずですよ。

それが見えたときには、広い道を作りはるか先に行ってしまった、共に歩いた人の背中が見えるようになるはずですよ。

大きく手を振って、振り合って、お互いにいつまでもその姿が見えるようになるはずですよ。どこの道でも、自分が決めたその道が、自分の人生。

それでいいのだと、私は思いますよ。」

この旭丘高校での三年間、素晴らしい出会いの中で育まれた友情と、毎日積み重ねた確かな軌跡、未来を見据える輝く瞳、皆さんにはたくさんの宝物があります。この宝物を持っていても、時に道に迷い、どうしたらいいのかわからなくなることがあるかもしれません。どんな時も私たち家族が、友人が、恩師がそっと心に寄り添っています。どうか思い切ってこの坂を越え、広い世界に羽ばたいてほしいと思います。

結びに、教職員の皆様、同窓会、後援会の皆様、地域の皆様ならびに保護者の皆様のPTA活動へのご協力に感謝申し上げますとともに、卒業生の皆さんのますますのご活躍を祈念し、お祝いのことばといたします。本日は誠におめでとうございます。

最後に、保護者を代表して一言お伝えしたいことばがあります。

「十八年前この世に生を受けたその日から、たくさんの笑顔と喜びをくれて、ほんとうにありがとう。」

令和2年3月1日
市立札幌旭丘高等学校 PTA 会長 鈴木 郁恵